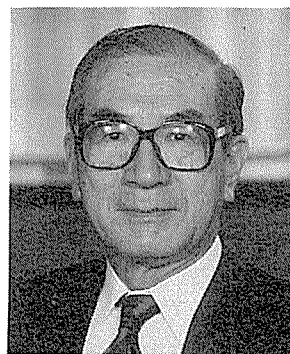


■ 巻頭所感



三野 定*

平成4年の巻頭にあたり、プレストレストコンクリート技術協会の会員皆様には、ますますご清栄の段お喜び申し上げます。

私共のプレストレスト・コンクリート建設業協会は、貴協会の力強い技術的サポートによって、今日まで発展してきたものでありまして、皆様に対し心から感謝申し上げます。

さて、IABSE（国際構造工学会）は本年3月に第14回会議をインドのニューデリーで開催する予定ですが、そのテーマとして、「Civilization through Civil Engineering」を掲げております。ここでいう Civil Engineering は土木技術という狭い意味のものではなく、Military Engineering すなわち軍事技術の対局にあるものを指すものでありますから、このテーマは「土木建築技術を通じての文明」と解すべきものでありましょう。この会議の組織委員会委員長のコシ氏は、人類の福祉と進歩とを助長するために果たす土木建築技術の役割を強調するのが目的だ、と述べておりますが、文明史の中で土木建築構造物が演じてきた役割の数々を回顧するとき、上述の IABSE のテーマの意味は一層よく理解できると思います。このテーマによって、私たちの造る構造物に要求されているのは、単にその機能だけではない、ということ改めて認識させられるのであります。

— 昨年6月、第11回の FIP（国際プレストレストコンクリート連盟）の国際会議がドイツのハンブルグで開催されましたが、この時 FIP 賞のトップに選ばれたのはフランスの La Grande Arche でありました。パリのデファンス地区にユニークな造形を誇るこの構造物は、アルシュ・サミットの会場になったことで一躍世界の注目を浴びましたが、PC 構造の可能性を示したものと言えましょう。佳作に選ばれた中には、伝統的な議会のイメージを破って近代的で明るい開放感によって市民を惹きつけているオーストラリアの首都キャンベラの新国会議事堂がありますし、わが国からは泉都別府へのアクセスを提供するだけでなく新しい景観をも添えることになった別府明礬橋があります。残念ながら、その他の受賞作品は見たことがありませんが、防潮堤、海洋石油基地用のプラットホーム、卵形消化槽、核廃棄物貯蔵庫など多彩な PC 構造物が受賞しており、PC 構造の広い適用性を物語っております。いずれも、ただ機能的な優秀さだけで選ばれたものではありません。

近年、わが国においても、環境を大切にしようという声が高くなってきました。それは、地球環境というような大きな問題のものもありますが、生活環境という身近なものもあり、いずれも良い環境を保

* Sadamu MINO : (株)プレストレスト・コンクリート建設業協会副会長

◇寄書◇

つことが要求されます。そして、私達構造物を造る者には、構造物と自然環境との調和が強く要請されるようになってきましたが、大変いい傾向、というより、土木建築構造物が文明史上で演じてきた役割を回顧すれば、当然のことというべきかも知れません。そして、PC技術はこのような要請に最もよく応え得る技術ではないか、と思うのであります。

PCは比較的若い技術であります。その短い歴史の中で、さまざまな工法や技法を生み出してきたばかりでなく、新しい材料さえ生み出してきました。そしていろいろな環境条件に適応し、あるいは対応する構造物を造り出すことを可能にしてきました。このことが前述のFIP賞作品の例で、十分に証明されていると思うのであります。これまでのところ、日本では、PC技術の活用が橋梁部門に偏っているように思われますが、もっと各方面に応用されて、日本の文明により立派な役割を演ずることを、衷心より願うものであります。

これまでわが国のPC技術は、技術協会と建設業協会の密接な連携によって、すなわち理論と設計と施工が緊密に協同して発展してきましたが、今後とも両者相携えてPC技術の発展を図り、わが国の文明に貢献したいものであります。

おわりに、重ねて本年も皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。